

令和8年度小樽市立山の手小学校 学力向上改善プラン

1 児童の実態

令和7年度の改善プランでは、国語科では、漢字の読み書きにおいて本校独自の「漢ばる」の取組や家庭学習での練習の成果が表れ、4学年で目標が達成することができた。チャレンジテスト各種調査の結果でも、6学年中5学年で目標値をクリアしている。算数科においては、基礎的な技能の定着をはかる項目で概ね目標を達成することができた。チャレンジテストでも6年生以外目標値を上回った。低学年では、計算の仕方を説明する問題、高学年では、図形領域の正答率に課題が見られた。そのため、問題の解き直しに取り組んだ

標準学力調査では、3年生 5年生ともに国語科と算数科で全国平均を上回った。しかし、全国学力・学習状況調査では、国語科と算数科ともに全国平均を下回る結果となった。

児童アンケートより、ほぼ全員が家庭でも学習する習慣が身に付いている。年2回行った「家庭学習がんばろう週間」による取組では、家庭学習をしないという子の割合が減り、学年相応の時間を学習する児童が増えた。「家庭学習のすすめ」や「山の手スタンダード」を指針とした指導を継続し、今後も学校として6年間の見通しを持った家庭学習と音読習慣の定着を図っていく。

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・20分以上の家庭学習に取り組む割合を80%とする。 ・毎日の音読を80%以上取り組む。 ・基本的な生活習慣を身に付ける。
2年	・30分以上の家庭学習に取り組む割合を80%とする。 ・毎日の音読を80%以上取り組む。 ・基本的な生活習慣を身に付ける。
3年	・自主学習に取り組む割合を70%とする。 ・毎日の音読を80%以上取り組む。 ・基本的な生活習慣を身に付ける。
4年	・自主学習に取り組む割合を70%とする。 ・毎日の音読を80%以上取り組む。 ・基本的な生活習慣を身に付ける。
5年	・自主学習に取り組む割合を70%とする。 ・毎日の音読を80%以上取り組む。 ・基本的な生活習慣を見直す。
6年	・自主学習に取り組む割合を70%とする。 ・毎日の音読を80%以上取り組む。 ・基本的な生活習慣を見直す。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・1年生の漢字「読み」90%「書き」75%の定着。 ・チャレンジテストについて全道平均以上を目指す。
2年	・2年生の漢字「読み」90%「書き」75%の定着。 ・チャレンジテストについて全道平均以上を目指す。
3年	・3年生の漢字「読み」90%「書き」75%の定着。 ・チャレンジテストについて全道平均を目指す。
4年	・4年生の漢字「読み」90%「書き」75%の定着。 ・チャレンジテストについて全道平均以上を目指す。
5年	・5年生の漢字「読み」90%「書き」75%の定着。 ・チャレンジテストについて全道平均を目指す。
6年	・6年生の漢字「読み」90%「書き」75%の定着。 ・チャレンジテストについて全道平均を目指す。

<算数科>

学年	定着目標
1年	・繰り上がり、繰り下がりのある計算ができる。(85%) ・チャレンジテストについて全道平均以上を目指す。
2年	・九九を正確に覚える。(85%) ・繰り上がり、繰り下がりのある計算ができる。(80%) ・チャレンジテストについて全道平均以上を目指す。
3年	・整数の四則計算ができる。(80%) ・小数と分数のたし算、ひき算ができる。(80%) ・チャレンジテストについて全国平均を目指す。
4年	・わり算の筆算ができる。(80%) ・小数のたし算、ひき算ができる。(80%) ・小数と整数のかけ算、わり算ができる。(80%) ・チャレンジテストについて全道平均以上を目指す。
5年	・小数のかけ算、わり算ができる。(80%) ・異分母分数のたし算、ひき算ができる。(80%) ・チャレンジテストについて全国平均を目指す。
6年	・分数と整数、分数同士のかけ算、わり算ができる。(80%) ・チャレンジテストについて全国平均を目指す。

4 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ① 音読詩集や音読カードを活用し、日常的に音読に取り組む。
- ② 当該学年で学習する漢字は2学期中に学習し、冬季休業中や3学期に定着を図るとともに、毎月、月末は「漢ばる50」（漢字の書き取り50問テストの日）を実施することにより定着の状況を把握する。
- ③ チャレンジテストを実施し、基礎学力の確実な定着を図る。
- ④ AIドリル等を活用した繰り返し学習に取り組み、基礎学力の確実な定着を図る。

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ① 「小樽授業づくり5つのSTEP!!」に基づいた、自分の考えを書く活動や振り返りを位置づけた授業づくりに取り組む。
- ② 国語専科の活用や算数少数指導によるきめ細やかで丁寧な指導による基礎・基本の定着を図る。
- ③ ICTの活用により個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、自分の考えを表現したり説明したりする活動を取り入れる。
- ④ 全学級公開授業の実施や公開研究会の開催による校内研修の充実と「主体的に学びに向かう子どもの育成」の実現を図る。

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ① 「山の手ルーム」を行い、学習習慣が身につくように支援する。
- ② 「家庭学習のすすめ」を指針として、家庭での学習習慣の形成について啓発を図る。家庭学習がんばろう週間を前期・後期に設ける。
- ③ 生活リズムチェックシートやおたるスマート7、キャリアパスポートの活用等による学習・生活習慣の定期的な見直しと改善を図る。

5 実施計画

年月日	計 画 内 容
R 8年	
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上改善プランに基づく取組及び実施計画の確認 ・全国学力・学習状況調査過去問題の実施 ・チャレンジテスト（前年度問題・サポート問題）の実施 ・4月「漢ばる」の実施 ○R 8全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自校採点・分析・改善の取り組み
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○標準学力調査実施（第3学年・第5学年） ・5月「漢ばる」の実施
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後学習「山の手ルーム」の計画・実施 ○標準学力調査結果分析・改善の取り組み ・6月「漢ばる」の実施
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジテスト（1学期末問題・サポート問題）の実施 ・長期休業中学習サポートの計画・実施 ・家庭学習頑張ろう週間の実施 ・7月「漢ばる」の実施
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○R 8全国学力・学習状況調査結果分析 ・8月「漢ばる」の実施
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究における交流授業を通じた授業改善 ・9月「漢ばる」の実施
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・10月「漢ばる」の実施 ・校内研究における交流授業を通じた授業改善
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・11月「漢ばる」の実施 ・チャレンジテスト（2学期末問題・サポート問題）の実施 ・長期休業中学習サポートの計画・実施 ・12月「漢ばる」の実施
R 9年	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・学年末定着確認テスト ・1月「漢ばる」の実施 ・家庭学習頑張ろう週間の実施
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ・全国学力・学習状況調査過去問題の実施 ・2月「漢ばる」の実施
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に関する取組の状況把握 ・次年度に向けた取組の検討 ・3月「漢ばる」の実施 ○新学力向上改善プランの作成

6 評価方法

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ① 児童アンケート、保護者アンケート等を通して定期的に実施状況について把握・分析し、改善に努める。
- ② 間違えた問題の直し直しや繰り返し学習を通して、当該学年の漢字を確実に定着させる。
- ③ チャレンジテストの結果から、現状と課題、改善方策を学校全体で共有し、授業改善に生かす。
- ④ AIドリルの学習状況や進捗状況を把握し、補充的・発展的な学習を行う場面等において、個別の学習支援を行う。

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ① チェックリストを作成・活用する等、「小樽授業づくりの5つのSTEP!!」に基づく授業づくりについて、定期的に振り返る機会を設ける。
- ②③ 全国学力・学習状況調査や確認テスト、ほっかいどうチャレンジテスト、児童アンケートにより現状を分析し、改善に努める。
- ④ 研究協議や研究の評価を通して全職員で成果と課題を共有し、授業改善を図る。

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①②③ 児童アンケートや保護者アンケート等により現状を把握し、改善に努める。
- ② 家庭学習がんばろう週間では、事前と事後のアンケートをとり、変容を児童に伝えることで成果を実感させる。